

○キャリア教育実践報告 2

本校では将来の豊かな生活を目指してキャリア教育に取り組んでいます。学校教育目標を踏まえ、キャリア教育の全体目標を次のように設定しています。

自らの病気や障害と向き合い、病気に対する自己管理や心身の安定に配慮しながら、社会参加と自立、豊かな生活の実現に向けて、主体的に生きる力を育てる。

また、目標の達成に向けては「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つの力の向上を目指して、各学部・学級の授業形態や児童生徒の実態に応じて、さまざまな方法で実践しています。

今回と次回の進路だよりでは、各学部・学級のキャリア教育の取組を紹介します。

《小学部》

小学部の今年度の重点目標は「自分がやらなければならない勉強や活動が分かり、行おうとする。」「自分の仕事に対して責任をもって、最後までやり通そうとする。」です。子どもたちはそれぞれ、各教科でそのことについて学んで行動をしています。

今回は自立活動や生活単元学習で、作業的な活動に取り組んでいる姿を紹介します。

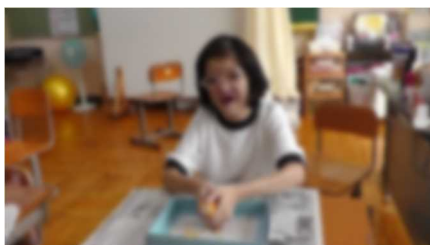
♠作業目標を考えて、記入しています。



♠牛乳パックに新聞紙を詰めています。



♠トウモロコシの粒を取っています。



♠コロコロでお掃除。



今年度は「みんなで一緒に活動をする」という時間を設け、目標を立てて作業を行うことができました。子どもたちは、この作業的な学習を通していろいろな経験（キャリア）を積み上げてきています。この積み上げが生きる力となり、子ども達の成長の糧かてとなるように、これからもいろいろな学習活動に取り組んでいきます。

《高等部》

高等部では、「自己理解・自己管理能力」を重点目標に掲げ、各ホームルームで取り組みました。

ワークシートを活用し、自分の長所と短所を分析し、それをもとに苦手な電話対応について練習しました。授業中の練習を生かし、実習先へ仕事の質問や終了の報告を電話で行うことができ、徐々に苦手意識がなくなってきたようです。



電話の練習中

ソーシャルスキルトレーニングを通して、場に応じた身だしなみや挨拶、言葉遣いなどについて実践形式で学習しました。ワークシートも活用し、実習や実技講習などで受けたアドバイスを生かして練習に取り組んだことで、姿勢や声の大きさに気を付けることができるようになりました。また、「遅くなってすみません」や「お話し中失礼します」など、場に応じた言葉遣いをすることができるようになってきました。



いろいろな挨拶の練習をしています

生徒達は、自分の良いところや課題について理解し、それぞれの活動に目標を持って取り組む様子が見られました。更なる成長を期待したいです。

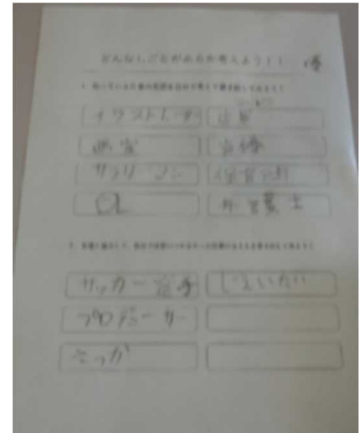
《おおるり分教室》

☆小学部

「総合的な学習の時間」で仕事調べを実施しました。

小学部では、「しごと調べ」プリントを活用して、どういった仕事を知っているか、自分が知っている仕事の名称と友達が知っている仕事の名称など、お互いの情報を交換しあいました。興味のある仕事や知っている仕事がそれぞれ児童によって違い、それを発表しあうことで新しい発見もあったようで盛り上がっていました。さらに、仕事の内容などをインターネットで検索し、児童の興味のある仕事について調べました。最後に、最も興味関心のある仕事を1つ決めて、インターネットなどで集めた情報をもとに、どうやってその仕事に就けるのかを考えました。

今回、自分達の興味のある仕事を調べたことで、目標が明確になり意欲が高まったようです。



「しごと調べ」のワークシート

☆中学部

中学部では、「総合的な学習の時間」を使って、適職発見ゲームや上級学校調べなどの進路学習を実施しました。適職発見ゲームは、生徒が今どんなことに興味や関心をもっているかということから、将来向いている仕事を発見するきっかけとして取り組んでいます。自分自身も知らなかった一面を発見したという声上がり、職業に対する考え方について意見を交換することができました。上級学校調べでは、興味をもった高校についてインターネットを使って調べました。自分の進路について考え、意欲を高める機会になりました。

また今年度の職業講話は、小学部5、6年生と中学部との合同学習で実施し、小児慢性期病棟の看護師長さんをお招きしました。師長さんから仕事の内容ややりがい、進路選択に至るまでの経緯なども伺え、中学部生にとっては特に学びの多い内容でした。看護師として働くことの責任の重さや喜びの大きさなど、たくさんのことに気付くことができました。教室での参加が難しい生徒についても、病室と会場を kubi でつないだことで一方通行にならず、質疑応答に参加したり、教室の友達とコミュニケーションを取ったりして同じ空間にいるかのように参加することができました。